



磐梯山とそば畑（磐梯町）



磐梯山と猪苗代湖（猪苗代町）



銅沼と爆裂火口壁（北塩原村）

ジオパークとは／磐梯山ジオパークの範囲

ジオパークとは、人と大地の関係を、楽しみながら学習できる自然の公園です。地質や地形だけではなく、素晴らしい景観や貴重な動植物をはじめ、文化や歴史、さらにはおいしい食べ物や温泉など、大地の上のすべてのものをまるごと楽しもうというもので、大地を楽しく学ぶテーマパークです。

磐梯山ジオパークは2011年9月5日に日本ジオパークに認定されました。北塩原村・磐梯町・猪苗代町の3町村、学校、研究機関、環境省、関連施設、ガイド、観光・商工団体、事業者、地域団体等が連携し、地域の宝を「知る・守る・伝える・生かす」活動を進めています。

1888年噴火が生んだ湖沼群と、災害からの復興



1888（明治21）年、水蒸気爆発で小磐梯が崩壊し、岩なだれが北側の集落を襲いました。477人が犠牲となる一方、堆積物が川をせき止め、桧原湖・小野川湖・秋元湖・五色沼湖沼群など数百の湖沼が誕生。

植林、砂防、道路整備等の復興により、荒れ地は森林と水辺へ変化しました。現在は国立公園として守られ、観光、自然体験、防災教育、研究の舞台です。

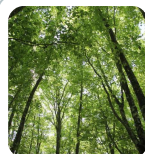
災害の記憶と、噴火が生んだ恵みの両方を伝えることが、この地域の大切な物語です。

「宝の山」の宝 | 大地から暮らしまで



大地・水

数十万年の火山活動と山体崩壊が、爆裂火口、岩なだれ堆積物、流れ山を残し、裏磐梯の湖沼群を生み出しました。猪苗代湖、龍ヶ沢湧水、温泉、大塩裏磐梯温泉の山塩も、大地と水の循環がもたらす恵みです。



自然・景観

噴火後の荒地には植物が入り、森林が再生しました。湖沼、湿原、ブナ林と結び付いた多様な生態系には、野鳥、昆虫、高山植物等が生息し、雄国沼や赤井谷地をはじめ、四季ごとに異なる景観をつくっています。



歴史・文化

磐梯山は信仰の山として仰がれ、慧日寺、磐梯神社、磐梯神社、土津神社等の歴史文化が育まれました。噴火災害と復興、安積疏水、集落の歩み、伝説、昔話、祭礼、民俗には、大地とともに生きた地域の記憶が残ります。



仕事・暮らし

火山が生んだ水、土、雪、景観は、食文化、温泉、宿泊、観光、登山、スキー、自然体験を支えています。観光施設、ガイド、農業者、事業者、住民など、地域で暮らし、守り、伝える人そのものも大切な宝です。

現在の活動・取組み

学校教育

地域内の学校で出前授業と現地学習を実施。火山、災害と復興、湖沼、森林、歴史文化を教科、防災、SDGs、探究学習と結び付け、ジオガイドも授業や教育旅行を支えています。

調査研究



専門部会、大学、研究機関、博物館が、地形・地質、流れ山、水環境、土壌、森林遷移、生態、歴史文化を調査。成果をジオサイトの価値付け、教材、展示、保全計画、講座、ガイド解説へ還元しています。

保全



爆裂火口、露頭、湧水、湖沼、湿原、史跡などを計画的に観察・記録。環境省、管理者、専門家、ガイド等と変化を共有し、劣化の早期把握、安全確保、観光利用と保全の両立に生かしています。

ガイド養成



山岳、自然、歴史系ガイドが町村を越えて案内できるよう、地学、生態、歴史文化、安全管理、解説技法を学ぶ講座、認定、現地研修を実施。有料ガイドの自立と、教育旅行や多様な旅行者への対応力を高めます。

普及発信



フォーラム、専門家講演、地質の日ジオツアー、展示、イベント出展、広報誌、案内看板、ウェブ、SNS、動画、ジオパーク通信を活用。点在する見どころを、火山・自然・人の物語としてつないで発信します。

地域連携



学校、環境省、関連施設、大学、ガイド、地域団体、観光・商工事業者、住民と連携。教育旅行、自然体験、ジオグルメ、カレー、農業、フェノロジーカレンダー、展示、ツアー等へ宝を展開しています。

講演会で考えること

隠岐の実践を参考に、磐梯山地域に既にある活動・人材・施設と、自分の宿泊、食、物販、体験、交通、接客、案内、地域活動をどう結び付けられるかを考えます。伝えられる資源、組める相手、既存サービスに加えられる物語、まず小さく試せる取組、地域と自社の双方に生まれる価値を探しましょう。